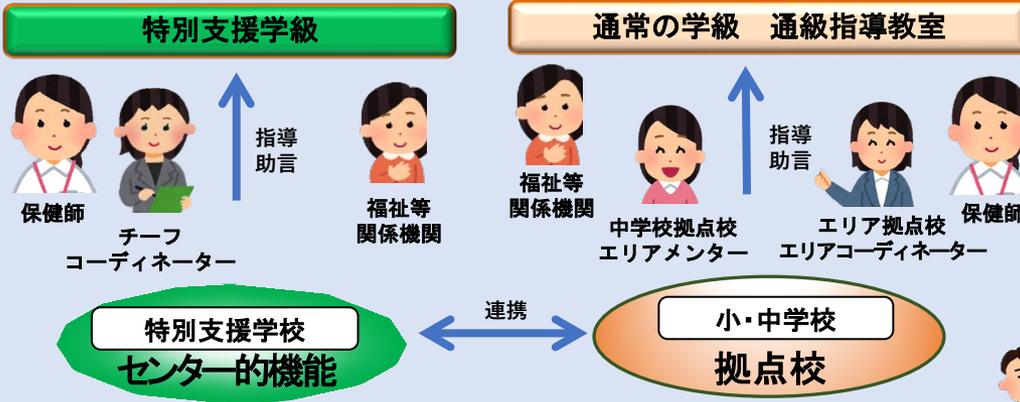


① 経験の浅い教員への指導・助言などのサポート体制の構築

ア 学びの場ごとに焦点化した巡回支援



イ サブエリアコーディネーターの養成と活用

エリアコーディネーターの補助的役割として、現籍校の近隣の学校の一次的な相談窓口となり、助言等の支援を行う。上級コーディネーター養成研修修了者（小中学校合わせて約60名）の中から、現籍校での役割等を踏まえて、県教育委員会が依頼する。



ウ 実践校への支援

特別支援教育に係る課題解決が特に困難な学校に対し、教育行政機関が訪問等による指導助言等を行い、特別支援教育の視点に立った学校経営構築を推進する。



エ 「授業のユニバーサルデザイン化」マニュアル作成

通常の学級における特別支援教育の視点を生かした授業作りの在り方や工夫についてまとめたマニュアルを作成し、各学校に配布することで、児童生徒のニーズに応じた指導の充実を図る。



② 教員の専門性向上のための研修等の機会の充実

ア 通常の学級の担任を対象にした研修「エリア研修」



イ 通級による指導の担当者のスキルアップ研修



ウ 関係機関との連携・協働（研修・会議）

例：相談支援ファイルや個別の教育支援計画の活用促進に係る検討会



③ 現状に即した教員養成課程における教授法の検討

★大学と連携しての実践に即した教授法の検討会



小・中・高校の教員をめざす学生に対して、通級による指導に係る実践的な知識や技能を身に付けさせる教授法について検討する。